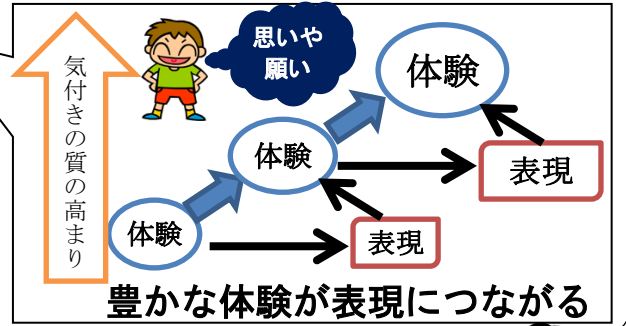
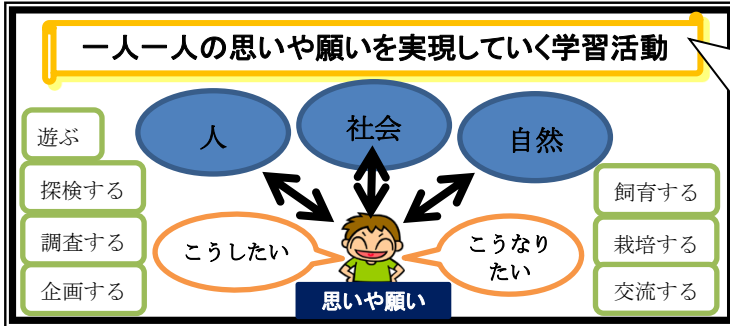


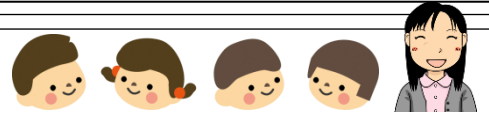


①児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

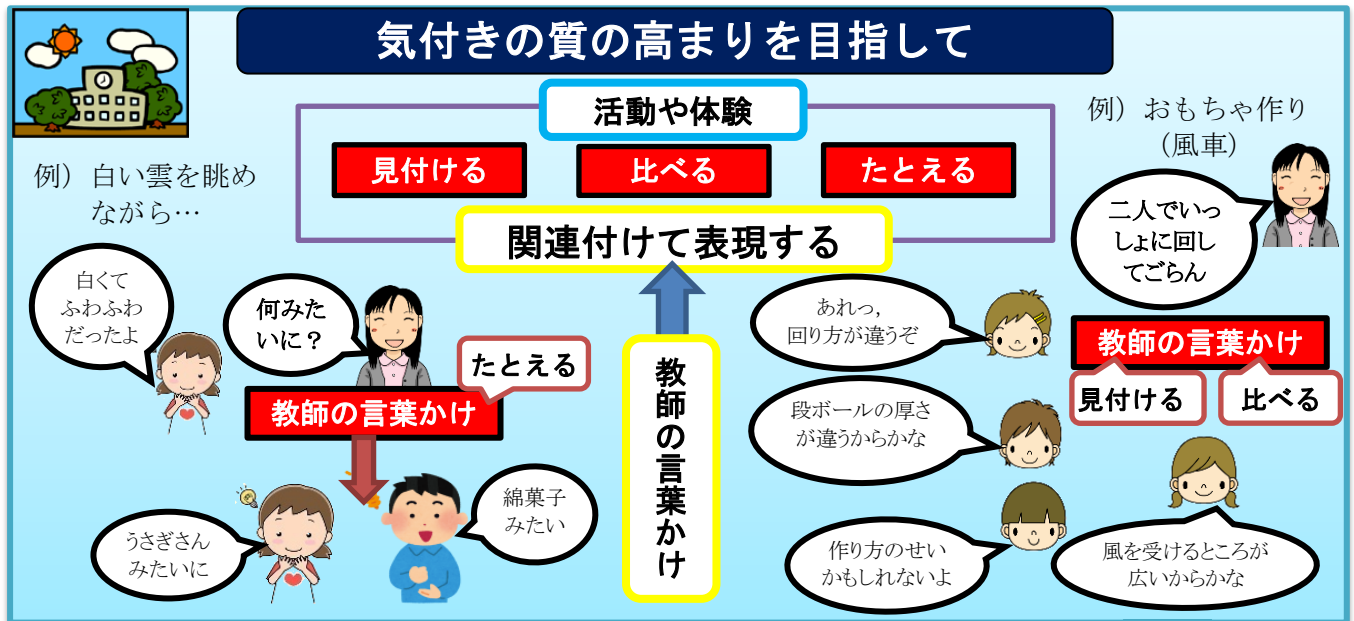
◆生活科では、一人一人の児童の思いや願いの実現に向けた活動を展開していきます。対象（人、社会、自然）との出会わせ方の工夫や子供の思いや願いを大切に学習課題を設定することが求められます。そのためには、体験活動と表現活動を相互作用させる単元構成の工夫が大切になります。体験活動と表現活動が充実することで、児童の気づきの質が高まり、学習への意欲がより一層高まっていきます。



②考えを広げ深める対話的な学びの充実



◆生活科では、それぞれの気づきを共有し関連付けて気づきの質の高まりを目指します。そのためには、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの多様な学習活動の工夫が求められます。児童は表現することで活動や対象を見つめ直したり、過去のことや周りのことと比べたりして気づきの質を高めていきます。



★気づきの質を高めるためには「見付ける」「比べる」「たとえる」を意識した教師の言葉かけが大切です。

③学びを自覚し、次につながる振り返る活動の充実

明日はどれだけ大きくなるかな。



◆児童は学習したことを豊かな表情と言葉で語りことや学習カードへの記録を通してその価値を実感します。また一人一人の気づきを全員で共有することにより新たな気づきが生まれ、次の活動への意欲につながります。

◆単元学習後には、単元全体を振り返り、学びの実感と共に自分自身の成長も実感できるようにします。学習したことを、改めて児童が実際の生活の中で生かしていくことで、自立への基礎へつながっていきます。



まいにちあさがおのお世話をしたので、あさがおがおおきくなりました。あさがおといっしょにぼくもおおきくなりました。



生活科の時間だけではなく、日頃の児童の様子を丁寧に見取り、一人一人の児童に寄り添った言葉かけや働きかけをしていきましょう。